JACLaP NEWS

JAPANESE ASSOCIATION OF CLINICAL LABORATORY PHYSICIANS

[Homepage]http://www.jaclap.org]

No.135 / 2020.2

2020 年行事予定

2 月 8 日(土)	第 1 回常任幹事会
5 月 15 日(金)～16 日(土)	第 30 回日本臨床検査専門医会春季大会 第 1 回全国幹事会、第 56 回総会、第 10 回生涯教育講演会
5 月 24 日(日)	第 89 回教育セミナー(順天堂大学)
7 月 17 日(金)	第 37 回臨床検査振興セミナー
9 月 5 日(土)	第 2 回常任幹事会
11 月 11 日(月)	臨床検査の日
11 月 19 日(木)～22 日(日)	第 67 回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡) 第 2 回全国幹事会、第 57 回総会・講演会

【目次】

p.1	巻頭言：第 30 回日本臨床検査専門医会春季大会テーマ：次世代バイオマーカーへの挑戦
p.2	事務局からのお知らせ、2020・2021 年度役員のお知らせ、2020・2021 年度各種委員会委員のお知らせ、第 55 回日本臨床検査専門医会総会報告
p.3	2019 年総会講演会報告、第 65 回日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告、2019 年「全国検査と健康展」報告、2020 年第 30 回春季大会のお知らせ、2020 年第 10 回生涯教育講演会のお知らせ、第 67 回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)のご案内
p.4	2020 年度会費振込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、医学部における臨床検査医学教育の実態調査のまとめ～その３～
p.5	会員の声：臨床検査専門医となって、臨床検査専門医試験を終えて
p.6	会員の声：臨床検査専門医試験合格に際して、感謝と助言および宣誓、編集後記

ログインされましたか？
臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclp.org

HPアドレス（QRコードも対応）
http://www.jaclap.org/qa/login

巻 頭 言

第 30 回日本臨床検査専門医会春季大会長
鹿児島大学病院 検査部長
橋口　照人

第 30 回日本臨床検査専門医会　春季大会
テーマ：次世代バイオマーカーへの挑戦

この度、第 30 回日本臨床検査専門医会　春季大会を令和 2 年 5 月 15 日、16 日に鹿児島にて開催させていただきますことを大変光栄に存じます。大会のテーマを「次世代バイオマーカーへの挑戦」としました。最初の教育講演では九州大学の康 東天 先生に「共用基準範囲誕生の視座」のタイトルでお話いただきます。共用基準範囲誕生の背景にはこれまで臨床検査医学を支えてきてくださった産学官の先達の努力の積み重ねがあることを改めて認識する機会になればと思います。もう一つの教育講演は自治医科大学の小谷 和彦 先生に「在宅医療における臨床検査医学」のタイトルでお話いただきます。超高齢化社会はもうすぐそこにあります。在宅医療における臨床検査が質・量ともに進化を求められることは間違いありません。次世代バイオマーカーを考える時、在宅医療を視野に入れ準備しておくことは極めて重要であると考え、ご講演をお願いしました。特別講演には国立長寿医療研究センターの中村 昭範 先生に「アルツハイマー病のバイオマーカー」のタイトルでお話をいただきます。次世代バイオマーカーとして現在、国際的に注目を集めている研究成果をご発表いただきます。臨床検査専門医 Catch up シンポジウムでは次世代バイオマーカー候補として注目されている 4 つの領域についてお話いただきます。順天堂大学の荒木 慶彦 先生にはペプチドームの、鹿児島大学の山口 宗一 先生には miRNA の次世代バイオマーカーとしての可能性と解決すべき問題点についてそれぞれお話いただきます。また、慶応大学の涌井 昌俊 先生には、日常臨床に用いられている凝固時間を凝固カスケード反応の本質に着目した解析により見えてくるバイオマーカーとしてのパラメーターについてお話いただきます。東京大学の蔵野 信 先生には脂質の臨床検査医学の新機軸としてのリゾリン脂質についてお話いただきます。また、臨床検査専門医会主催の生涯教育講演会として医療安全の領域で極めてご高名な名古屋大学の長尾 能雅 先生と近畿大学の辰巳 陽一 先生のご講演をいただきます。ランチョンセミナーでは、富山大学の仁井見 英樹 先生に次世代の迅速微生物検査について実用化を視野に入れたお話をいただく予定です。以上述べましたこの度の企画は本土最南端の鹿児島までお越しいただき聴いていただくに相応しい内容であると自負しております。是非多くの先生方にご参加いただき、活発なご議論をいただければ幸いです。

ご来鹿を心より楽しみにお待ち申し上げます。

事務局だより

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2020 年 1 月 14 日現在数 789 名、専門医 646 名

【所属・その他変更】（敬称略）

安東由喜雄：旧　熊本大学大学院生命科学研究部・神経内科学／熊本大学付属病院検査部
新　長崎国際大学　副学長・教授

竹下　享典：旧　名古屋大学医学部附属病院検査部
新　埼玉医科大学医学部臨床検査医学 教授／総合医療センター中央検査部 部長

岡田　仁克：旧　大阪医科大学医学部総合医学講座病理教室／大阪医科大学付属病院中央検査部
新　京都橘大学健康科学部臨床検査学科 特任教授

入江　康司：旧　北九州総合病院
新　福岡徳洲会病院

村田　光繁：旧　慶應義塾大学医学部臨床検査医学
新　東海大学医学部附属八王子病院　教授

【退会会員】（敬称略）

平尾　良雄：ひらお内科クリニック
松村　康史：京都大学大学院臨床病態検査学
山本　正樹：京都大学大学院臨床病態検査学
村上　俊一：
庄司　　優：医療法人財団あおば会介護老人保健施設 ハート五橋
富田　泰史：弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座
物部　泰昌：川崎医科大学総合医療センター病理科
千葉　貴人：秋田大学医学部附属病院皮膚科
前島　新史：東京医療センター臨床検査科
松浦　元一：徳島赤十字病院

【2020・2021 年度役員のお知らせ】

2020・2021 年度（令和 2・3 年度）役員として以下の先生方が就任されました。

会　　長：〆谷　直人
副 会 長：菊池　春人（法人化検討 WG）、村上　純子（女性医師支援 WG）
常任幹事：東田　修二（庶務・会計幹事）、五十嵐　岳（広報委員会委員長）、田部　陽子（教育研修委員会委員長）、東條　尚子（資格審査・会則改定委員会委員長）、福地　邦彦（情報・出版委員会委員長）、増田亜希子（ネットワーク運営委員会委員長）、三井田　孝（保険点数委員会委員長）、横崎　典哉（渉外委員会委員長）
全国幹事：伊藤　弘康、稲葉　　亨、植木　重治、大西　宏明、上岡　樹生、北中　　明、木村　　聡、木村　秀樹、下　　正宗、千葉　泰彦、中島　　収、中村　聡子、藤井　　聡、松井　啓隆、松野　容子、山崎　悦子、山崎　正晴
監　　事：土屋　達行、古川　泰司

【2020・2021 年度各種委員会委員のお知らせ】

2020・2021 年度各種委員会委員が決定いたしましたのでお知らせします。（敬称略）

＜情報・出版委員会＞
福地　邦彦（委員長）、五十嵐　岳、出居真由美、後藤　和人、信岡　祐彦、盛田　俊介、吉田　　博

＜教育研修委員会＞
田部　陽子（委員長）、浅井さとみ、岩泉　守哉、東田　修二、堀内　裕紀、宮崎　彩子、山崎　正晴、涌井 昌俊

＜資格審査・会則改定委員会＞
東條　尚子（委員長）、上原　由紀、大西　宏明、金子　　誠、狩野　有作、増田亜希子、横山　直之、土屋　達行（アドバイザー）

＜広報委員会＞
五十嵐　岳（委員長）、上蓑　義典、尾崎　　敬、高木　潤子、田部　陽子、千葉　泰彦、西川　真子、増田亜希子、山本　絢子、木村　　聡（アドバイザー）

＜渉外委員会＞
横崎　典哉（委員長）、浅井さとみ、五十嵐　岳、久川　　聡、東條　尚子、日高　　洋、吉田　　博

＜保険点数委員会＞
三井田　孝（委員長）、浅井さとみ、下澤　達雄、鷹野　壽代、福地　邦彦、藤田　直久、松下　一之、三宅　一徳、吉田　博、古川　泰司（アドバイザー）

＜ネットワーク運営委員会＞
増田亜希子（委員長）、荒岡　秀樹、河野　誠司、鯉渕　晴美、佐守　友博、宮崎　彩子、村田　哲也、山口　宏茂、土屋　達行（アドバイザー）

＜法人化検討ワーキンググループ＞
菊池　春人（担当役員）、東條　尚子、東田　修二、村上　純子

＜女性医師支援ワーキンググループ＞
村上　純子（担当役員）、上原　由紀、五十嵐　岳、上蓑　義典、小笠原理恵、鯉渕　晴美、堀内　裕紀

【第 55 回日本臨床検査専門医会総会報告】

第 55 回日本臨床検査専門医会総会は 2019 年 11 月 21 日（木）に岡山コンベンションセンターにて開催されました。

＜審議事項＞
第一号議案：2020 年度予算について（**別表**）
第二号議案：2020 年度名誉会員・有功会員の推薦について
第三号議案：

会則改定案 1
（現行）
会則　第 3 章　会員　第 7 条
退会希望者は会長あて退会申込書を事務局に提出する。会長の確認日を以て退会日とする。
（改正案）
退会希望者は会長あて退会届を事務局に提出する。会員資格の喪失の時期は、退会届を本会が受理した日とする。

会則改定案 2
（現行）
細則（会員資格の喪失の時期）
第 4 条
会則第 3 章　第 8 条の会員資格の喪失の時期は、退会届を本会が受理した日とし、幹事会の承認を得て確定とする。
（改正案）
第 4 条を削除し、以下条番号を繰り上げる。

第一号～第三号議案は承認されました。

（別表） **2020 年度予算案（参考資料：2019 年度予算）**

		項　目	2019度予算（当初案）	2019度補正予算	2020度予算案
収入欄	入金	会員会費	6,575,000	6,575,000	6,535,000
		賛助会員会費・寄付金	3,500,000	3,500,000	3,300,000
		小　計	**10,075,000**	**10,075,000**	**9,835,000**
	その他	広告収入	200,000	200,000	250,000
		教育セミナー参加費	400,000	400,000	400,000
		生涯教育講演会参加費	200,000	200,000	200,000
		振興セミナー参加費	60,000	60,000	60,000
		利息	1,000	1,000	1,000
		小　計	**861,000**	**861,000**	**911,000**
	入金合計		**10,936,000**	**10,936,000**	**10,746,000**
支出欄	庶務経費	事務所維持費	1,700,000	1,700,000	1,700,000
		人件費	1,750,000	1,750,000	1,750,000
		設備費	50,000	50,000	50,000
		電話・FAX使用料	60,000	60,000	60,000
		通信費（事務局）	170,000	170,000	210,000
		事務局雑費	150,000	150,000	150,000
		小　計	**3,880,000**	**3,880,000**	**3,920,000**
	事業経費	印刷代	2,000,000	2,000,000	1,400,000
		要覧印刷代	0	0	0
		通信費	800,000	800,000	600,000
		春季大会補助金	500,000	500,000	500,000
		臨床検査振興セミナー費	850,000	850,000	850,000
		教育セミナー費	650,000	650,000	650,000
		会議費	1,000,000	1,000,000	1,000,000
		交通費	100,000	100,000	100,000
		宿泊費	30,000	30,000	30,000
		原稿料	50,000	50,000	50,000
		専門医ホームページ開発費	0	1,738,000	0
		専門医ネットワーク移設費用	0	91,800	0
		専門医ﾈｯﾄﾜｰｸ維持費	100,000	100,000	100,000
		HP維持費	0	0	330,000
		会員管理委託費	170,000	170,000	132,000
		広報活動費(委員会HP)	50,000	50,000	50,000
		JCCLS会費	50,000	50,000	50,000
		WASPALM会費	55,000	55,000	55,000
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	300,000
		内保連	200,000	200,000	200,000
		予備費	151,000	151,000	429,000
		小　計	**7,056,000**	**8,885,800**	**6,826,000**
	出金合計		**10,936,000**	**12,765,800**	**10,746,000**
収支決算			**0**	**-1,829,800**	**0**

なお、名誉会員・有功会員として承認されたのは以下の先生方です。

名誉会員

佐守　友博 先生、田窪　孝行 先生、玉井　誠一 先生、
渡邉　直樹 先生

有功会員

金澤　知徳 先生、田内　一民 先生、土屋　眞一 先生、
寺井　　格 先生
中村　康寛 先生　　保坂　典子 先生

＜報告事項＞

1. 2019 年度中間会計報告
2. 各委員会等報告等

【2019 年総会講演会報告】

第 55 回日本臨床検査専門医会総会に引き続き総会講演会が開催されました。

登　勉先生に「臨床検査医学教育の現状と臨床検査専門医の将来」についてご講演いただきました。100 名を超える会員の参加がありました。

【第 65 回日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告】

第 65 回日本臨床検査医学会学術集会における本会関連行事として以下の共催シンポジウムおよび共催ワークショップが開催されました。

＜**共催シンポジウム**＞ 2019 年 11 月 23 日（土）

「他の領域から検査に移って　専門性を活かした新たな挑戦 ― 検査医学への貢献、検査医学に欠けているもの望むもの ―」

さまざまなバックグラウンドの先生方 5 名を迎え、シンポジウムを行いました。

＜**共催ワークショップ**＞ 2019 年 11 月 24 日（日）

臨床検査専攻、転科を考慮している医学生～研修医対象の RCPC、ポスター展示

共催シンポジウム、共催ワークショップは日本臨床検査医学会の教育委員会、ワークライフバランス委員会と本会が共催しました。

それぞれ多くの参加者を得て議論、交流が行われました。

【2019 年「全国検査と健康展」報告】

昨年度も 11 月 11 日（金）「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展」（日本臨床衛生検査技師会、臨床検査振興協議会との共催）が各都道府県で開催されました。

本年は 10 月 13 日～ 12 月 14 日まで、全国 19 会場、延べ 37 名の臨床検査医にボランティアとして「検査説明・健康相談」を担当いただきました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【2020 年第 30 回春季大会のお知らせ】

大会長：橋口　照人（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
　　血管代謝病態解析学 教授）
メインテーマ：「次世代バイオマーカーへの挑戦」
会　場：TKP ガーデンシティ鹿児島中央
会　期：2020 年 5 月 15 日（金）～ 16 日（土）

プログラム詳細、認定単位等は日本臨床検査専門医会 HP に順次掲載していきます。

5 月 15 日夕刻には懇親会も予定されています。奮ってご参加下さい。

5 月 15 日春季大会の開始時刻は 14:25（全国幹事会は 12：50 開始予定）、2 日目（5 月 16 日）の終了時刻は 15:45 を予定しています。 空港バス乗り場は会場から歩いて 5 分、10 ～ 15 分間隔で運行、空港までの所要時間 40 ～ 50 分です。

【2020 年第 10 回生涯教育講演会のお知らせ】

春季大会会期に合わせ、2020 年第 10 回生涯教育講演会が開催されます。本講演会はすべての会員を対象とした医療安全に関する講演会です。

（新専門医制度専門医共通セミナー講習としての申請を予定しています。）

日　時：2020 年 5 月 15 日または 16 日
会　場：TKP ガーデンシティ鹿児島中央
参加費：2,000 円（予定）
プログラム詳細は追ってお知らせします。

【2020 年行事予定】

2020 年の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

2020 年
2 月 8 日（土）　第 1 回常任幹事会
5 月 15 日（金）～
　16 日（土）　第 30 回日本臨床検査専門医会春季大会
　　第 1 回全国幹事会、第 56 回総会、
　　第 10 回生涯教育講演会
5 月 24 日（日）　第 89 回教育セミナー（順天堂大学）
7 月 17 日（金）　第 37 回臨床検査振興セミナー
9 月　5 日（土）　第 2 回常任幹事会
11 月 11 日（月）臨床検査の日
11 月 19 日（木）～
　22 日（日）第 67 回日本臨床検査医学会学術集会（盛岡）
　　第 2 回全国幹事会、第 57 回総会・講演会

【第 67 回日本臨床検査医学会学術集会（盛岡）のご案内】

諏訪部章学術集会長より、現時点での予定が届きましたのでご案内します。

第 67 回日本臨床検査医学会　学術集会（概要）

会　期：2020 年 11 月 19 日（木）～ 22 日（日）
※翌 23 日は勤労感謝の日で祝日

会　場：マリオス（盛岡地域交流センター）、アイーナ（いわて県民情報交流センター）
※いずれも盛岡駅に隣接

テーマ：人工知能（AI）時代の臨床検査

会　長：諏訪部　章（岩手医科大学医学部臨床検査医学講座）

事務局長：鈴木啓二朗（岩手医科大学医学部臨床検査医学講座）

内容（予定）：

・メインテーマ：AI と臨床検査に関する情報集約と共有化
AI と臨床検査に関する特別講演、教育講演、シンポジウムの開催予定（演者選定中）。
AI を取り入れた架空の「AI 検査室（検体検査、生理検査）」を設営し、参加者に体験してもらう企画を検討中。

・臨床検査に何を求めるか―各科スペシャリストからの提言：糖尿病学会を予定。

・一般演題は、他の学会企画（シンポジウムや単位取得のための講習会など）と重複しないようにするために、原則ポスターとする。その中からトピックとなるテーマを選定してミニシンポジウムを企画予定。

・学会最終日の午後を盛り上げる企画として
医療安全関連の講習会・本学会初めての ICD 講習会の開催・その他の学会や団体の認定講習会などを予定しています。

【2020 年度会費振込のお願い】

3 月に年会費振込用紙をお送りいたします。振込をよろしくお願い致します。

尚、未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします（納入状況は振込用紙に記載します）。

2020 年度年会費：10,000 円
（2020 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方は 5,000 円）
銀行名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：９９００
店番：０１９　　店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店）
預金種目：当座　　口座番号：００２０５０９
口座名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡下さい。

＜連絡先＞日本臨床検査専門医会 事務局
（水・土日祝祭日は休業日）
電話：03-3864-0804　FAX：03-5823-4110
メールアドレス：senmon-i@jaclp.org

【医学部における臨床検査医学教育の実態調査のまとめ ～その 3 ～】

登　　勉

前号では、今回行ったアンケート内容、ならびに教授ポストのアンケート結果を記載した。今号では、助教～准教授ポストの結果を記載していく。

□　教育体制について　～助教から準教授のポスト～

教員数（教授～助教）の分布を**表 1** に示した。国立の教員数 1 ～ 7 名では、最も多かった教員数 4 名の 7 校を除いて、3 又は 4 校が分布していた。公立 7 校では、教員は 2 名から 9 名在籍していた。私立では、教員数 2 及び 3 名がそれぞれ 6 校と 5 校で 14 校であったが、それ以外は教員数 1 名から 8 名まで 1 ～ 3 校が分布した。教員数でみると、国公私立の間に大きな差を認めなかった。従来の講座では、教授、准教授（又は講師）、助教 2 名の 4 名体制が通常であったが、国公私立とも教員数が 3 名以下の体制が全体の 3 分の 1 程度になっていた。最も危惧する点は、国立 3 校と私立 2 校での教員 1 名体制であり、臨床検査医学教育への関与は困難であることが想像される。

次に、所属する医師の専門について、臨床検査医（**表 2**）とその他の専門（**表 3**）についてまとめた。臨床検査医が 1 または 2 名在籍しているのは、国立 33 校中 23 校（69.7%）、公立 7 校中 7 校（100%）、及び私立 26 校中 14 校（53.8%）であった。臨床検査医が 1 ～ 3 名在籍している割合は、国立 81.8%、私立 73.1%であり、国公私立全体では 66 校中 56 校（84.8%）で

表 1　教員数でみた国公私立別分布

教員数	校数		
	国立	公立	私立
1	3		2
2	3	1	6
3	3	2	5
4	7	1	3
5	4	1	3
6	4		3
7	4	1	1
8	1		2
9		1	
10	1		
11以上	3		1

表 2　臨床検査医数でみた国公私立別分布

臨床検査医数	校数		
	国立	公立	私立
0	3	0	2
1	14	6	6
2	9	1	8
3	4		5
4	1		4
5			1
6	1		
12	1		

表 3　臨床検査医以外の専門分野の医師

専門分野	校数		
	国立	公立	私立
病理	5	0	5
感染症	10	1	2
内科	24	6	15
外科	1	0	2
その他	皮膚科 小児科		精神科 小児科

あった。気になる点は、国立 3 校と私立 2 校では臨床検査医が在籍していないことである。これら 5 校は表 5 で示した教員が 1 名の国立 3 校と私立 2 校ではなく、教員は複数名在籍しているが臨床検査医がいない。臨床検査医以外の専門分野は、国立では病理、感染症、そして内科が殆どであり、私立では病理と内科が多かった。公立では、感染症と内科のみであり、病理を専門とする医師は在籍していなかった。

【会員の声】

臨床検査専門医となって

2019 年度の臨床検査専門医認定試験に合格いたしました、横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床検査部長・臨床検査科部長の海老名俊明と申します。私は 1988 年（昭和 63 年）に横浜市立大学医学部を卒業し、初期研修を経て循環器内科医となりました。

私は 1998 年に内科認定医、1999 年に総合内科専門医、2000 年に循環器専門医、2002 年に超音波専門医を取得し、この時点でもう専門医試験を受験することはないだろうと思っていました。初期研修後に大学院進学し、3 年ほどの米国留学を経験した後に、大学病院や市中病院勤務を経て、2004 年より横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センターで循環器内科医として働いておりました。2017 年に臨床検査科所属の循環器内科医の前任者が退職することになり、その後任に私が就くこととなりました。その時の臨床検査部長・臨床検査科部長は、大学の医局（循環器・腎臓・高血圧内科学）の大先輩である宮島栄治臨床検査医学教授であり、私が研修医の頃よりお世話になっていた先生でしたので、心臓血管センターから臨床検査科への異動はそれほど抵抗はありませんでした。横浜市立大学附属病院時代にも中央検査部に所属していた経験があり、今回の異動前は臨床検査の一分野である超音波専門医・指導医を持っていれば、臨床検査の分野で仕事をする上でも問題はないだろうと考えていました。そのような経緯で、最初は生理検査室での仕事を中心に、循環器内科の仕事もしつつ、臨床検査医学の勉強もするという状況でした。

ところが、ほとんど循環器内科の臨床しか経験のなかった私は、やがて臨床検査医学においては大変狭い領域しかカバーしていないことに気付くこととなりました。2019 年 3 月には宮島部長・教授は退官となるため、その後任となるには何とか臨床検査専門医を取得しなければならないというプレッシャーがかかるようになりました。しかし、大学を卒業してから約 30 年経過し、それなりの年齢となり、循環器以外の分野、特に血液や輸血、感染症などの分野は不得手な領域となっていました。

臨床検査専門医の先生に日本臨床検査専門医会の教育セミナーを受講するとよいという助言をいただき、2018 年と 2019 年に教育セミナーを受講しました。このセミナーは大変勉強になりました。セミナーでの各分野の専門の先生のレクチャーは実践的であり、臨床検査専門医試験を受けるためにはどのようなことが必要かがわかり、前年度の合格者体験談も参考書や勉強の仕方といった面で大変有用でした。その流れで 2018 年夏に臨床検査管理医の資格を得ることができました。臨床検査医学に関しては、当院の臨床検査技師スタッフにも大変お世話になりました。顕微鏡の使い方、血液標本の見方、血液型判定と交差適合試験のやり方、グラム染色と標本の見方や各細菌の特徴や判別のポイントなどを熱心に教えていただきました。そのような周囲のスタッフの助けと励ましがあり、2019 年の真夏の 2 日間の難しいと感じた専門医認定試験に何とか合格することができました。

宮島前部長・名誉教授をはじめ、ご指導や激励をいただいた横浜市立大学関連や神奈川県の臨床検査専門医の先生方、そして当院の臨床検査部・輸血部の臨床検査技師の皆様に心より感謝申し上げます。臨床検査医学に関連した広い分野を勉強したことは大変有意義なことであったと思います。今後は臨床検査専門医として精進し、少しでも患者さんや病院スタッフのお役に立てるよう尽力していく所存です。臨床検査専門医としての経験はまだ浅いため、今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

（横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床検査部長
海老名俊明）

臨床検査専門医試験を終えて

皆様、はじめまして、琉球大学附属病院検査・輸血部の今村美菜子と申します。このたび臨床検査専門医の仲間入りをさせて頂く事になりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

私は 2015 年 11 月より琉球大学医学研究科先進ゲノム検査医学講座准教授を拝命し、附属病院の検査・輸血部では副部長を務めております。これまでに寄稿されていた多くの先生方と同様、セカンドキャリア組です。私は 1995 年に九州大学を卒業、九州大学病態制御内科学（旧第三内科）に入局し、2 年間の臨床研修では内科全般、その後は糖尿病を中心とする代謝内分泌疾患領域の臨床経験を積みました。糖尿病専門医を取得してゆくゆくは福岡市近郊で勤務医を続けられれば・・というぼんやりとした将来のイメージを描いていたのですが、2003 年より米国ベイラー医科大学分子生物学講座に留学したころから人生が想定外の方向に進みはじめました。結局米国には 7 年も長居してしまい、その後は理化学研究所で生活習慣病の遺伝要因の解明を目的としたヒトゲノム研究に 5 年間従事しました。糖尿病専門医取得のタイミングもつかめず、好きで続けているものの理研で研究者として生き残る道は険しく、そろそろ先のことを考えなければ・・・と思いはじめたころ、現職にご縁があったという経緯です。

現職に着任後は検査・輸血部副部長としての業務、学生教育、そして理研時代の流れを汲んだヒトゲノム研究それぞれをバランスよく（お察しください）こなす必要があり、知力体力気力の衰えをひしひしと感じる中での臨床検査専門医取得はハードルが高いと躊躇しておりました。しかし、立場上避けて通れないと悟ってからは腹をくくり、研修期間の条件をクリアした 2019 年に受験することにしました。以下、受験対策・当日の試験のことなど今後受験される先生方に参考にして頂けそうなことを列挙したいと思います。

【筆記試験対策】受験の 1 年前から「標準臨床検査医学（医学書院）」を通読することから始めました。検査医学総論・一般検査・血液検査までは順調でしたが、生化学に入った頃から知識を詰め込むことに心が折れ始め、ペースが落ち、fade

out。試験を受ける年の5月に専門医試験受験者を対象とした教育セミナーを受講し、そこでようやく勉強すべき方向性が明確になりました。実際の試験では筆記試験（含むMCQ）は噂に違わず難しく、広範囲の知識が求められるものでした。
[アドバイス（反省をこめて）] 教育セミナーは可能なら受験の前年までに受講しましょう。セミナーの内容を足がかりに1年（あるいはそれ以上？）かけて自分自身で知識を広め深めると良いと思います。出題範囲が広いので標準的な教科書を一通り勉強するのが理想的と思います。私は挫折しましたが。
【実技試験対策】思いの外効果的だったのが医学部学生のポリクリに実習生として参加することです。琉球大学では精鋭の各検査部門の臨床検査技師たちから実習指導をうける一週間のプログラムを採用しています。手前味噌ですが良くできたプログラムで、一週間かけて学生たちと一緒に実習すると実技試験に必要な知識のかなりの部分をカバーできました。講師を担当する技師さんたちは私がいるとやりづらかったようですが（笑）。試験の2ヶ月前から細菌検査室と輸血検査室の技師さんたちに、血液型判定・クロスマッチ・グラム染色・顕鏡の個別トレーニングをお願いし、手順の最終確認を数回行いました。
[アドバイス] 実技のトレーニングは必須です。日頃から人間関係を良好に保っておきましょう。ただし、受験することを皆に知られてしまうデメリットがあります。試験のあとは技師さんたちへのお礼も忘れずに。
【日常業務の中で受験に役立ったこと】ISO 15189の認定取得および維持のための活動に積極的にかかわることと、リスクマネージャーとしての業務の経験により検査室運営に関する知識が自然と習得できていました。
[アドバイス] 面倒にも思える業務であっても考え方次第では試験対策になります。頭の隅のどこかに試験を意識して日常業務にあたりましょう。
【臨床検査管理医講習】私は2017年に受講しました。この頃は専門医試験を受けるかどうか迷っており、せめて管理医だけでも・・・という気持ちでした。専門医に合格すると管理医も自動的に取得できるので必須ではないと思いますが、教育セミナーと同様に系統的かつ効率的に学習できるメリットがあり、受講して良かったと思っています。
[アドバイス] 時間とお金に余裕があれば管理医講習も受けておきましょう。

合格通知をいただいたときは「もう試験のことを気にかける必要はなくなった」と肩の荷がおりた気持ちでしたが、もちろんこれがゴールではなく、臨床検査領域の発展にすこしでも貢献できるよう精進していく所存です。自身のライフワークである個別化医療の実現を目指したゲノム研究においても臨床検査専門医としての知識と立場を最大限に活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、臨床検査専門医取得に際し研修責任者・研修指導者として御指導くださいました琉球大学先進ゲノム検査医学講座の前田士郎教授、検査・輸血部の東上里康司先生、実技指導をしてくださいました山内恵技師長をはじめとする琉球大学検査・輸血部のスタッフにこの場をお借りして厚くお礼を申し上げたいと思います。

（琉球大学附属病院検査・輸血部　今村美菜子）

【編集後記】

JACLaP NEWS 今号135号より編集主幹を務めさせていただく後藤和人と申します。編集副主幹として、前編集主幹の五十嵐　岳先生の元、数ヵ月間学び、今号より編集主幹をさせていただくことになりました。五十嵐先生、2年間の編集主幹お疲れ様でした。今後とも、ご指導のほど、よろしくお願いします。また、ご多忙な中にも関わらず、巻頭言、会員の声のご執筆を快諾いただいた諸先生方、毎号の事務局だよりをまとめてくださっている専門医会事務局 市川綾子様、編集作業を行ってくださった八木書店の皆様、JACLaP NEWSの執筆・編集をしていただいている臨床検査専門医会の役員・情報出版委員会の皆様には感謝申し上げます。不慣れな点も多いとは思いますが、今後ともご指導のほどよろしくお願いします。

簡単に私の自己紹介をさせていただきます。2002年に九州大学医学部を卒業して、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学に入局しました。以後4年間、肝臓内科医として研鑽を積み、4年半の臨床大学院では免疫学（福井宣規教授）の研究を行いました。さらに2年半は地域病院において肝臓専門医としての修練を行った後、九州大学病院検査部（康　東天教授）に勤務となりました。以後、臨床検査専門医取得のための研修を行い、2016年に臨床検査専門医を取得しました。現在も臨床検査専門医として、臨床・学問の研鑽に励んでいます。

今後のJACLaP NEWSに関しては、これまでの体裁・内容を維持しつつ、年3～4号ペースに増加することによりタイムリーな情報発信ができればと思います。臨床検査専門医会の皆様の役に立つ情報や臨床検査医学会などの関連学会の学会の情報をより多く皆様にお届けできるように頑張っていきます。掲載したい内容がございましたら、気楽に私までご相談下さい。また、皆様多忙とは存じますが、こちらよりの執筆依頼も受けていただければ幸いです。

（編集主幹 九州大学病院　検査部　後藤　和人）

日本臨床検査専門医会
会　　長：〆谷直人、副会長：菊池春人（法人化検討WG）、村上純子（女性医師支援WG）
常任幹事：東田修二（庶務・会計幹事）、五十嵐岳（広報委員会委員長）、田部陽子（教育研修委員会委員長）、東條尚子（資格審査・会則改定委員会委員長）、福地邦彦（情報・出版委員会委員長）、増田亜希子（ネットワーク運営委員会委員長）、三井田孝（保険点数委員会委員長）、横崎典哉（渉外委員会委員長）
監　　事：土屋達行、古川泰司
全国幹事：伊藤弘康、稲葉　亨、植木重治、大西宏明、上岡樹生、北中　明、木村　聡、木村秀樹、下　正宗、千葉泰彦、中島　収、中村聡子、藤井　聡、松井啓隆、松野容子、山﨑悦子、山﨑正晴
情報・出版委員会：
委員長：福地邦彦
委　員：五十嵐岳、出居真由美、後藤和人、信岡祐彦、盛田俊介、吉田　博

日本臨床検査専門医会事務局
〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地　第3東ビル908号
TEL：03-3864-0804　FAX：03-5823-4110　E-mail：senmon-i@jaclp.org